

秩父宮別邸跡

八柳 修之

鶴沼橋通り、橋湯便局前をさらに進むと信号がある。信号を左に曲がると江ノ電鶴沼駅、134号線、藤沢消防署前が出るが、右折し 40m~50m 進むと突き当りに広い敷地がある。天理教会神奈川台分教会、元秩父宮別邸跡である。2012年、ウォークメイトの例会で邸内を見学させていただき、天理教会仲野会長からお話を伺ったことがあった。コロナで断捨離中、当時の書き物が見つかった。

「秩父宮殿下は肺結核の静養地を探しておられたところ、和光堂という製薬会社の社長の別荘に白矢が当たり譲渡された。一階にはダンスホールや五右衛門風呂もあったという話です。昭和28年1月、宮殿下が逝去された後、妃殿下は約1,000坪の敷地と居宅を藤沢市に買取を打診されたが、市は財政難を理由に成立しなかった。その後、天理教が買い取り、昭和45年、取り壊し、コピーする形で以前と同じ間取りの居宅が建築された」。昭和31年当時、まだ取り壊されなかった秩父宮別邸の写真は、藤沢駅南口湘南薬品の一角に昔の藤沢市の写真展の中に飾られていることは先に述べた。1,000坪もの敷地、屋敷林が分筆されずに残ったのは、天理教会が一括買取、分筆などしなかったからであろう。



昭和31年頃の秩父宮別邸 写真は藤沢駅南口湘南薬局で見られます。

玄関口からのスロープ

ところで、秩父宮雍仁（やすひと）殿下は、大正天皇と貞明皇后の第二王子、昭和天皇の弟君である。勢津子妃殿下は会津藩主、松平容保の四男恒雄（外交官）のご息女であり米国留学経験もあり今流帰国子女である。雍仁殿下がオックスフォード大学に留学中、松平恒雄は英国大使をしていた縁もあったとされる。会津の松平藩は明治維新の際、薩長に賊軍、朝敵とされたから、ご結婚には反対の向きもあったという。秩父宮は秩父宮ラグビー場、冠はついていないが花園ラグビー場、札幌のスキージャンプ大会は宮様杯と知られているごとくスポーツの宮様として知られている。宮様は昭和15年、37歳のとき肺結核のため御殿場で療養生活を送ることとなった。一説には殿下が戦時下より一貫して戦争拡大政策に批判的であったとされ軍部に煙たがられていたという話もある。1952年1月（昭和27）、気候もよく東京にも近いと御殿場から鶴沼に移り住んだが翌年1月に逝去。50歳。昭和天皇も弔問に訪れた。コロナが終息したら少人数のウォークメイトでは是非訪れたいところである。分会長の仲野さんは緊急時の避難場所や町内会の餅つき会、集まりの場として地域に溶け込んでおられると伺った。 完